

やり直しのできる社会を！

2021.8.6

新宿連絡会NEWS

VOL. 81

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

オ リ・パラの夏

笠井和明

かつて、高田馬場日雇労働出張所が建っていた場所は、今や労働者が集まる姿はなく、戦後直後に建てられた掘っ立て小屋のような事務所も建て替えられ、東京労働局の、何をしているだか良く分からんお役人のための立派なビルになっている。

その建物の前の斜面になっている道路は、かなり前から改修工事となり、車も通れず、フェンスがはられ、狭い歩道を通ってでなければ、高田馬場駅の戸山口から、小さな「寄せ場」でもあった西戸山公園には行けなかった。

一緒に高田馬場地区の巡回活動（パトロール）をしていた仲間は、なかなか進まぬ工事に、「ここは、オリンピック道路なんだよ」「オリンピックに合わせて開通することになっているのさ」と^{うそぶ}嘯き、工事の工法が間違っているだとか、この業者はどうかの、そんな話題をこの道を通るたび、いつも振りまいていたものである。

ところが、本当にオリンピックの開催に合わせたかのように、今年に入り、信号が廃止され、新しいエレベーター付の歩道橋が完成、そしてくだんの道路も開通した。高田馬場の「お山」（「寄せ場」）を頼りに仕事を続けて来たその仲間は、しばらく前に現役を引退し、福祉の世話になり、飲酒が祟ったか、肝硬変で亡くなった。

「あの、うそ臭い話は本当だったんだね」と、マスク越しに苦笑い。

東京で開催される「オリンピック・パラリンピック」を「目途」と、その開催が決定して以降、様々な立場

の人々がそれを「目標」に色々な計画やら思惑やらを立てて来た。

東京都の路上生活者対策も、表向きは「直接リンクしない」との立場であったが、その実、公園管理、道路管理、警察、福祉事務所、地域住民やらが、良い意味でも、悪い意味でも、これまた様々な動きがあり、もちろん、私たちも、それに協力したり、しなかったり、独自にやっちゃったりと、それが何だか一つの「目標」としてあったのだが、昨年、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の



影響で「延期」を決定したことから、雲行きが怪しくなり、最後の最後、かなり路上に影響があると思われていた都内各所のパブリックビューイングの中止、聖火リレーの公道利用中止、都内会場の「無観客」決定で、すべての「目途」が泡のように消えていった。

新宿で大きく変わったのは新宿中央公園の北側広場。かつて定期的な炊き出しや越冬の場として「お借り」していた場所は、どこの公園かと思えばかりに芝生の映える「スタバ」のある奇麗な公園になった。

「オリ・パラ」で多くのインバウンド（訪日外国人観光客）が新宿のホテルや民泊に泊まるので、その憩いの場所が路上生活者に占領されていたら格好悪い。そんな思惑があったのか、なかったのか、とにかく「オリ・パラ」に向けて整備がされた（ここのテントがなくなったのは「 Dengue 熱騒動」の時であるが）は良いが、インバウンドは、新型コロナ流行の中、観光目的の入国が不可能となり、高級ホテルは当てが外れ、民泊もお客が来なければ経営難。大久保、歌舞伎町界隈の人の流れは、かつての賑わいを知っている者からすると、物足りなさを感じるであろう。

中央公園は今や訪日外国人もおらず、煙草を吸うためだけに来ている都庁の職員達も追い出され、地域の家族連れや近くの会社員がのんびりと過す本来の公園に戻り

つつある。

インバウンドが居ないだけでなく、東京の今年は「緊急事態宣言」等が長引き、「営業自粛」「時短営業」「酒類提供禁止」などに支配される都市になり、歌舞伎町や飲食店等から、仕事やバイト先を失った若者が途方に暮れてしまった。ぎりぎりのところで雇われていたり、ぎりぎりの生活をしたりしている人はこの街にも、もちろん居り、そんな人々は、福祉事務所へ飛び込んだりとしているが、今回はぎりぎりではなく、それなりに生活していた人々も途方に暮れてしまった。家賃が払えず困っていると相談をし、住宅確保給付金制度を紹介されたまでは良いが、給付家賃の限度額が单身だと5万ちょっと分かった瞬間、顔が青ざめ、「実は家賃9万なんです」と、ため息。

驚くことなかれ、そもそも新宿の中心部は家賃相場がべらぼうに高く、基準額内で暮らしているのはごくごく少数。この人に制度の認定がおりたとしても、差額は他の収入やら貯蓄を切り崩さなければならず、また、生活費も借金をせねばならず、（助かると思ったら、社協からの借金漬けになっちゃったと、そんな笑い話があちこちで）ハローワークに通っても、今までのような収入の見込みがなければ、家を手放すしかない。そんな込み入った話にどこまで加われるのか？そんな関係性があるのか？

支援と云うのも、言うは簡単であるが、実際は極めて難しい。

ぎりぎりの生活をしてきた人は、そこに固執はせず、次のところへ必死に渡り歩こうとするであろうが、そうでない、守る人であるとか、家であるとか、そんなものがある人々は、生活支援と言っても、そう簡単には行かない。そして、スキルと職種が合致している人々は、転職支援、労働力の移動と言っても、これもまた、そう簡単には行かない。

現実なんてものは、役人や、学者や、専門家や、宗教者や、政治家が思い描くより、複雑怪奇なものであり、広い大きな概念の中には相反する構造やら利害が眠っていることすら、自らがそう云う立場にならない限り、ただ見ているだけでは理解が出来ないものである。

「コロナ禍」と云われている中で底辺下層の人々がどのように生きて来たか？こと路上に限っては、そもそも



が貧困であり、これ以上墮ちようにも、その先はたかが知っている。ここには中間層がよく頼りにする「安定」なんて云う概念はないし、明日はあるが、希望の明日はない世界でもある。それでもどうにかインフォーマルに生きて来たのが下層であり、今更フォーマルになれはしない。「コロナ禍」で影響があるとすれば、仕事を契機に路上から脱する機会が減ったことか。それでも東京は東京で、あっちに仕事が無ければこっちにある。そうそう言われている程、皆自粛などしていないし、人混みも減ってはいない。経済や人の営みは、何があろうと止まる事はなく、流れていく。その場、その時で変化できるのも、何も持たない底辺下層の強みでもあり、東京で暮らせなければ他所へ流れて行くだけである。

それを、あれが大変、これが大変と、お涙頂戴話はたくさん出回るが、その「解決」と云うのは実に様々で、そして誰かの責にしてみれば簡単であるが、そうしたとしても栓がない話にしかならない。まあ、政府やら都やらがやって下さるものは、規制以外は感謝感激。ありがたく頂戴したり利用したりするのが流儀であったりもする。したたかなのである。

新国立競技場を建て替えるため、そこに起居していたテントの人々の転宅支援に回ったのはもう5年も前であるが、そのうちの数名は今も毎日のように顔を合わせる関係なのであるが、今は自分がどこで暮らしていたかなどと、あえて言わず、スポーツ新聞を広げ、日向ぼっこをし、週末になるとあちこちに出かけと、穏やかな老後の生活を営んでいる。また別の場所に戻って野宿生活を再開した人も居る。今、どうしているのか心配になり、少し探し回ったが、逢えなかった。まあ、それで良かったか否かは本人のみが知る。そして、自分がどこで生きていたかなんてことにノスタルジイを感じるのは、これまた極々少数である。生きるのに必死な時には、そんなことはどうでも良いものである。たまたまそこが、と云うよくある話しである。

決して「オリ・パラのため」ではないが、そんなことがあると、チャンスであるとか、きっかけであるとか、ある人にとってみれば不幸の順番か、幸福の順番か、そ

んなものが回って来たりもすることもある。

そんなこんなで、第5波となる新型コロナ感染拡大の最中に「オリ・パラ」が、都民から歓迎されているのかされていないのか良く分からず、何故か政治化してしまった状況で、とにもかくにも無事開催されたことは、それを準備して来た様々な人々の賜物である。

そして、その中でも、いろいろなきっかけを作りながら、問答無用の強制排除と云う手法でなく、ニーズ把握と相談をベースにした手法で東京の路上生活者を（都の概数調査上）一応減り続けさせて来たのであるから、それはそれで良かったのであろう（「ホームレス自立支援法」がまだ生きていたことも幸いした）。対立を煽り、そのネタを楽しんでいる人々が多くいる中、この問題は何とか乗り切ったのかなと云う感である。

「オリ・パラ」が終わっても、「コロナ禍」の方が、その収束と同時にどのような展開になるのか、その影響で路上を含め底辺・下層の人々の構成やら、ニーズやら、考えが、どう変わるのかは、風評に流されずに、これからじっくり、仲間と共に注視していかなければならない事なのだろう。今は水面下に隠れていても、これから表に出て来ることもあるし、これから排除されることもある。

何が起きてても不思議ではない、奇妙な世の中、まるで動物園の中に居るような東京。この街は、何があっても、俺らと同じく、くたばりはしないのだろう。

(了)



「歯

みがき」と「新型コロナワクチン」に関するアンケート調査

新宿保健医療班 中久木康一

よく、「野宿の人は歯が悪い」と言われます。かつて、新宿区では生活保護での歯科受診が野宿生活者には認められなかったため、1999年に新宿中央公園での医療相談で歯科検診を行い、野宿生活者の歯の健康や治療の必要性を数字として示し、改善を求めました。その後は、歯科治療の必要な方も、医療相談から紹介状を持って生活保護申請し、歯科治療に繋がるようになりました。

近年は、野宿生活されている方々も変化してきており、2014年には炊き出しからおにぎりパトロールに変更されたことをきっかけに、医療相談は訪問健康相談へと変更して8年目となりました。訪問健康相談では、「病院に繋いで医療を受ける」というよりは、「現状の生活で健康を守る」ということを支援したいと考えています。「病院に行きたい」という方以外には、いまの生活のままでどうやって病院に行かずに生活していくか、というサポートをしており、毎月の訪問時には、健康情報を掲載した医療班ニュースと、健康グッズをお届けしています。

毎年6月は、6月4日を含む「歯と口の健康週間」にあわせて、歯みがきに関する情報と、歯みがき・歯ブラシセットをお届けしており、今回、これにあわせてアンケート調査、を実施しました。

また、新宿区の新型コロナウイルスに対するワクチン接種は、75才以上が5月17日から、65才以上が6月4日から始まりましたが、住所地に送付される接種券を受け取れない方も少なくないと推察され、あわせて、ワクチン接種の意向、および、接種券の受け取りの可否についてもおうかがいしました。

調査対象： 新宿連絡会のおにぎりパトロール、および、深夜パトロールにてお声がけし、おにぎりや栄養食品などをお渡しした、路上で生活されているとおぼしき方々全員

調査方法： 新宿保健医療班のボランティアからお声が

けしての聞き取り調査（無記名）

調査日： 2021年6月13日（日）

（1）ご協力くださった方々

ご協力くださったのは、110名（おにぎりパトロール（17時から20時）85名、深夜パトロール（21時半から23時半）25名）でした。なお、お会いした方々のうち、お声がけできなかったのは、夕方7名、深夜12名でしたので、お会いした方の85%にご協力いただけたこととなります。

内訳は、男性が95%を占め、60%が60代以上で、63%は野宿歴は3年以上でした。新宿連絡会のアウトリーチにおける対象者は、比較的長期に野宿生活を継続されている方が多いように思われました。

性別：男性 104名（95%）、女性 6名（5%）

年齢：20代 1名1%、30代 5名5%、40代 13名12%、50代 18名16%、60代 43名39%、70代 18名16%、80代 5名5%、記載なし 6名

野宿歴：1年以下 6名5%、1～3年 13名12%、3年以上 69名63%、記載なし 22名20%



(2) 歯みがきについて

歯の数は、「わりとある」52名（47%）、「だいぶ無い」18名（16%）、「殆ど無い」19名（17%）、「無い」13名（12%）でした。入れ歯の有無や使用については、「無い・使っていない」が95名（86%）でしたが、10名（9%）が「ある・使っている」としていました。義歯については、「義歯をつくりたいが3か月かかると言われて諦めた」というコメントがありました。

食べ物については、「なんでも食べられる」が56名（51%）、「食べにくいものがある（硬いのは食べられない）」が38名（35%）、「食べにくい・食べられない」が6名（5%）で、食べている時に「むせる」ことがあるとしたのは、6名（5%）でした。「歯ぐきで肉も食べられる」「時間をかければ食べられる」「ナッツ以外は食べられる」、そして、「義歯は外して食べる」というコメントもありました。

歯みがきについては、「毎日みがく」52名（47%）、「2-3日に1回程度みがく」22名（20%）で、「2-3日に1回以下だが、たまに磨く」11名（10%）、「みがかない」18名（16%）でした。コメントからは、歯を毎日みがく人は、朝と夜の2回みがく人が多いようでした。「歯みがきが無いからみがけなかった」という方も3名ほどおられ、今日から歯みがきできるとおっしゃっていました。かたや、「歯ブラシは持っているけど面倒くさい」という方もおられました。また、「歯はないけど、臭いのためにみがく」という方もいらっしゃいました。

おおむね半数は、ある程度の歯があり、何でも食べられるようでした。歯はあまり無くても概ねのものは食べられる方が多かったです、「食べにくい・食べられな

い」、「食べている時に『むせる』ことがある」とした方もそれぞれ5名おられ、歯科治療が必要な方もおられるかと思われましたが、歯科治療には数か月にわたる通院が必要となることも少なくなく、その調整との兼ね合いになるかもしれません。

歯みがきは、半数程度は毎日していましたが、4人に1人くらいは殆ど磨いていないようです。確かに、シャワーや着替えも毎日できていない方も少なくないでしょうが、せめて洗顔や歯みがきなど、できることは毎日して清潔を保つように、お声がけしていきたいと思えます。

(3) 新型コロナワクチンについて

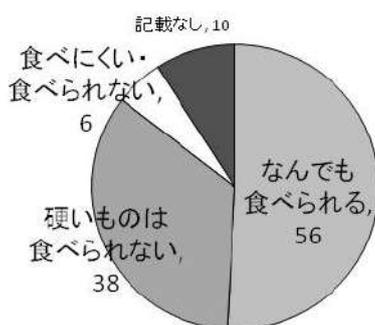
「新型コロナウイルスのワクチンを打ちたいと思っている」という人は、45名（41%）でした。うち3名は、「既に打った」「予約した」とのことでした。逆に、「打ちたくない」は57名（52%）、「わからない、まだ決めていない」は5名（5%）、記載なしは3名（3%）でした。

ワクチンを打ちたい理由には、「受けたほうが良いと言われているから」1名、「仕事の面接を受けられなくなると困る」1名があげられました。逆に、ワクチンを打ちたくない理由には、「副反応・副作用・後遺症が不安、もう少し様子を見たい」9名、「効果もわからない、必要がないと思う」4名、「アレルギーのために医師に受けないように言われている」1名、「呼吸器疾患があるために受けたくない」1名、「注射は嫌だから、痛いから」2名、「（名前を）登録しないと受けられないから」2名でした。

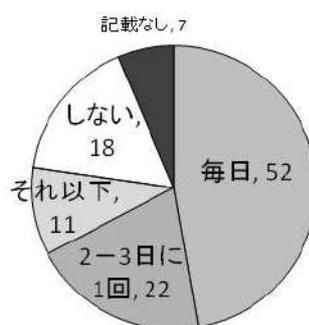
ワクチンを「打ちたい」「わからない・まだ決めていない」と答えた60名の方に、更に、「住所地に郵送されるクーポンは、受け取れそうか」を伺った結果、「受け取れる」24名（40%）、「受け取れない」22名（37%）、記載なし4名（7%）でした。

クーポンを受け取れない理由は10名がコメントくださり、「住所がない、住所

なんでも食べられるか



歯みがきの頻度



があるかわからない」9名、「住所地に郵送されても、それを自分が受け取れない」1名でした。1年ほど前の特別定額給付金の時に住所を調べたり整理したりした方もいらっしゃる、比較的受け取れる方が多いように感じました。

また、新宿駅前では、「マスクはすると雑菌が繁殖するからしてはいけない」「ワクチンは打ったら死ぬから打ってはいけない」とかいうグループが、「本当かどうかわからないキャンペーン」をしていたりもするそうです。

今回の対象者は、長期に野宿生活を継続されている方が多く、2020年12月以降の新型コロナウイルスの蔓延を受けた後に、経済的に困窮するなどして野宿生活を送られている方は、比較的少ないと考えられます。

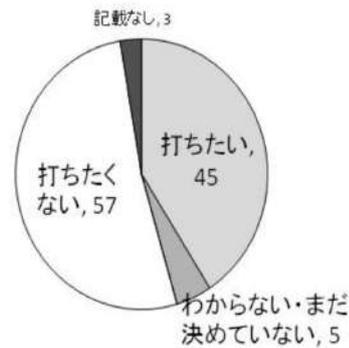
そのような方々においては、それほどワクチン接種の希望が強くはありませんでしたが、もともとワクチン接種とは無縁で生きて来た方にとっては、ワクチン自体がよくわからないし、ワクチンを打たずに今まで生きて来たのだから大丈夫ではないか、と感じている印象がありました。

他地域の一部の野宿者支援団体において、なかなか予約がとりにくい、集団接種会場に行きにくい、という環境があるため、大学や企業が行っているような「職域接種」のような仕組みで、団体事務所などを接種会場と設定してワクチンを接種したという報道もありました。

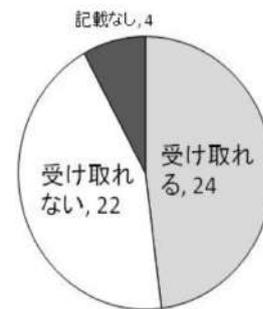
新宿保健医療班においては、野宿生活者は地域住民のひとりであると考え、「だれにでも機会は等しくあるべき」と考えています。ですから、野宿生活であるがゆえに、接種の意向はあるものの接種券を受け取れない、という方であっても、何かしらの形で受けとれるようにしていただきたいと考えています。この調査結果は、新宿連絡会から新宿区との協議資料として活用いただき、対応を準備していただけることは確認しています。

もちろん、接種券を受け取ったうえで、携帯電話を持たない、インターネットを使えない、などの理由で接種予約が困難な方や、接種会場までの移動などが困難な方

ワクチン接種 (n=110)



接種券 (n=60)



に対しては、公的な支援で足りない場合にはお手伝いさせていただければと思いますし、必要なことはまた新宿区などとも協議して対応を検討したいと思います。

その後7月9日に、厚生労働省より「ホームレス等への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の接種機会の確保について」と題した事務連絡も発出されています。

また機会をみて、みなさんの生活でのお困りごとなどお伺いし、必要な内容を新宿区側と共有して方策を検討するなどして、野宿生活をされていたとしても、それぞれが尊厳を守られた生活が送れる社会であるようにしていきたいと考えています。

今後ともよろしく願いいたします。



コ

ロナ禍でも日常活動を淡々と

おにぎり巡回パトロール3-6月実績

		都庁	西	公園	東	小計	周辺部	戸山地区	全計
						(前年同月比)			
2021	3月7日	50	20	15	43	128			
	3月14日	54	24	14	61	153			
	3月21日	54	16	15	48	133			
	3月28日	51	21	20	44	136			
	3月平均	52.3	20.3	16	49	137.5 (5.5)			
	4月4日	60	23	16	59	158			
	4月11日	56	27	16	54	153			
	4月18日	53	19	17	63	152			
	4月25日	60	20	18	66	164			
	4月平均	57.3	22.3	16.8	60.5	156.8 (-11.3)			
	5月2日	62	24	18	52	156			
	5月9日	62	25	15	51	153			
	5月16日	66	20	16	52	154			
	5月23日	64	18	21	47	150			
	5月30日	69	20	15	48	152			
	5月平均	64.6	21.4	17	50	153.0 (-15)	12	13	178
	6月6日	63	22	16	59	160			
	6月13日	67	19	15	47	148			
	6月20日	64	17	24	51	156			
	6月27日	54	17	15	57	143			
6月平均	62	18.8	17.5	53.5	151.8 (-4.5)	13			

4ヶ月平均	174
-------	-----

世は「非常事態」だ「まん延防止」が長引き、あれが駄目だ、これが駄目だと、まるで「風紀委員」のような連中があれこれと人の生活を指図したり、宗教のような学者が「危機だ」「危機だ」と叫んでいたり、まったくもって不自由な世になったものです。

それでも路上を支える活動は、監視の目をかいくぐり、出来ないことはさっさと諦め、出来ることを着実に、そして淡々と行うようにしています。

新宿だけは、路上の人々が割とわかりやすく、しかもまとまって居るので、色々な活動はし易い場所であることは今も変わらずで、心配をしてくれている方々が多く

訪れてくれています。食料支援をして下さる新たなグループも多く出来、それはそれで大変助かっています。

こう云う市井の目立たぬ活動が大きな力になったりもしません。

人通りの少なくなった夜の新宿の仲間の最新の数は若干減程度で、昨年とだいたい同じ寝場所と水準を保っています。

夏場は分散傾向になり、そして秋口からまた戻って来ると云う、いつものパターンようです。そこをめがけて、おにぎりを配ったり、チラシを配ったり、相談に乗ってみたり、一緒に酒を飲んでみたり(笑)、まあ、そんな活動を続けてい

深夜巡回パトロール3-6月実績

日時	天候	4号街路	都庁	公園周辺	西口地下	西口地上	御苑	東	大ガード	新南口	深夜計
3/14-15深夜	晴れ	19	23	6	64	13					125
3/28-29深夜	雨	20	24	6	66	16	5	0	8	19	164
4/11-12深夜	晴れ	17	21	6	68	23	5	1	5	26	172
4/25-26深夜	曇	23	23	6	59	15	5	0	7	22	160
5/9-10深夜	晴	20	22	6	61	19	5	0	10	28	171
5/30-31深夜	晴	22	21	6	62	22	5	0	2	16	156
6/13-14深夜	晴	20	23	6	61	21	5	0	4	24	164
6/27-28深夜	晴	20	22	6	49	25	5	0	2	15	144

ます。

夏は衛生面がとても心配な季節。右の図は昨年度のシャワーサービスの実績ですが、今もこんな感じの間隔と人数でシャワーを提供しています。尤も今は、さっぱりして、着替えも定期的にしておかないと、新宿駅ではオリンピック警備のお巡りさんがうようよしているのです、すぐに職質にあってしまいます。

夏場の衣類提供も薄手のものを都庁の下だとか、事務所にて提供をしています。衣類等生活物資の提供は多くの方々から協力して頂いております。ありがとうございます。

夏と云えば「慰霊祭」ですが、今年も祭壇を作り、特に催しをすることなく、一人ひとり線香をあげていきたいと思ひます。

夏が過ぎれば、冬の準備。何かと心配ごとが多い季節になります。それもまた、淡々と。(S)

シャワーサービス2020年度実績

	実施回数	延利用者
4月	9回	117名
5月	7回	81名
6月	9回	89名
7月	8回	88名
8月	8回	89名
9月	8回	69名
10月	11回	96名
11月	7回	82名
12月	6回	68名
1月	8回	75名
2月	7回	50名
3月	9回	92名
計	97回	996名

新宿連絡会 会計報告

ご支援、ありがとうございます。寄付金に加えて、多くの衣類、日用品、食料、マスクなどを頂きました。「コロナ禍」で、大変な思いをしている方々が大勢いる中、路上にも目を向けて頂き、大変感謝しています。引き続き、路上の命を守るため取り組みを続けてまいります。

2020年度新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	229,217
1 寄付金収入	2,934,460	事務用品費	28,541
計上収入合計	2,934,460	事務所費分担金	360,000
		衛生管理費	17,599
		支払手数料	42,197
II 計上支出の部		車両費	87,565
1 事業費		雑費	58,705
弁当おにぎり事業	605,331	計上支出合計	2,700,123
越年越冬事業	566,225	計上収支差額	234,337
その他活動事業	410,393	前期収支差額	-193,870
2 管理費		次期繰越金	40,467
旅費交通費	58,830		
通信費	235,520		

2021年度 4月～6月新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	9,011
1 寄付金収入	669,082	事務用品費	14,430
計上収入合計	669,082	事務所費分担金	90,000
		衛生管理費	2,527
		支払手数料	8,632
II 計上支出の部		車両費	55,295
1 事業費		修繕費	15,915
弁当おにぎり事業	95,093	計上支出合計	533,602
越年越冬事業	0	計上収支差額	135,480
その他活動事業	160,348	前期収支差額	40,467
2 管理費		次期繰越金	175,947
旅費交通費	20,365		
通信費	61,986		

●活動カンパ

振込は 郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所にお願いします

★郵便物は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛てでお願いします。